

夢と握手

音楽表現の可能性を迫る、コルグの大きな夢のひとつをここに紹介します。

現在開発中の“CMCS”。

正式名称はComputer Controlled Music Create System。

音楽をつくり演奏するうえで発生するあらゆるファクターを、コンピューター制御してしまうシステムです。

つまり、電子楽器やエフェクターをはじめ種々の周辺楽器などをコンピューターに接続し、

それらをコンピューター・プログラミングすることで音楽制作の手間を一挙に省こうというものです。

この、夢のシステム。

開発段階ですが、すでにその一部に触れたプレイヤーが世界で1人だけいます。

そうです、あのキース・エマーソンです。

“CMCS”の構想にキースもたいへん関心を示し、システムの具体化に大いに期待を寄せてくれています。

コンピューターグラフィックス(本カタログ表紙使用)の映像革命につづき、

コンピューターをシステム化した音楽革命も刻一刻、実現へと向っているのです。

世界と握手

いい音は時代を超える。言葉を超える。

コルグ独自の創造性と技術力の結晶は、

世界をリードするシンセサイザーとなり、また数々の電子楽器となり、各国で熱い支持を得ています。

日本における楽器フェアはもとより、世界の2大楽器フェアである西ドイツのフランクフルト・メッセ、

アメリカのナム・ショーでは、毎年会場の話題を独占しています。

近例では、発売以来大好評のモノポリー・ポリシックスのこの2大楽器フェアにおける人気は圧倒的なものでした。

人気の高さをいえば、フランスにおけるシンセサイザー・マーケットのシェア率は、

なんと63.5%(D.I.S.C.誌1981年6月-7月号による調査)がコルグなのです。

ロック界で最初にシンセサイザーを取り入れ、

その後のシンセサイザー・ブームの火付け役ともなったキース・エマーソンをはじめ、

ソトム・ヤマシタ、喜多郎など、ミュージック・シーンのトッププレイヤーとともに

コルグの製品はグローバルな活躍をしています。

